

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3770700254
法人名	有限会社マイルドケア
事業所名	グループホームたんぼぼの家
所在地	香川県東かがわ市湊263-1 (電話)0879-26-3385

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価決定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(20年11月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	8,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	72歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田村内科医院 歯科しろとりごうだ
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周囲に田畑が広がり、窓越しに瀬戸内海を眺めることができる静かな環境にある。通所介護・訪問介護・居宅介護支援センターが併設され、行事や勉強会など日常的に連携して支援サービスに取り組んでいる。食堂兼居間は、利用者の作品、季節の花や飾り物、写真などを展示している。コタツを設置し、可動式のテーブルを活用して行事を行っており、当日も利用者や職員の明るい声や笑顔が見られた。利用者の好みを取り入れた献立は、品数も多く、糖尿病や嚥下困難な方などへの対応もしている。利用者の状態は、看護師である施設長の管理で、日々個別ファイルに詳細に記録して、写真を添えて毎月家族に送付したり、介護計画や支援に活かしている。利用者の尊厳を重視して、安心・安全・気配りをモットーに、地域との交流を積極的に取り組み全職員が前向きである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員会議で具体的な改善策を討議して、地域とのつきあい、本人と共に過ごし支え合う関係づくり、防災対策など改善課題に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を全職員が理解し共有して話し合い、自己評価の作成に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者・家族・自治会・市の担当者などの参加をえ、2か月ごとに運営推進会議を開催している。事業内容や企画を報告し、意見や要望を話し合って支援サービスに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日々の暮らしぶりを記録し写真を添え、また医療や金銭管理の報告を家族に送付している。家族の面会時に意見や要望を聞き運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に地域の人達と挨拶を交したり、小学校の運動会に参加や保育園との交流、地域のボランティアの定期的な訪問など、積極的に地域との交流に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念として「利用者の人権と意思を尊重し、家庭的な環境のもとで利用者が必要とするサービスの提供と、住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援し、自己研鑽と技術の向上」の四項目を掲げ、安心・安楽・気配りをモットーに支援サービスに取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念はホーム内に明確に掲示し、全職員が理念を認識し共有している。毎日の朝礼時に唱和して、日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に近隣の人達と挨拶を交わしたり、保育園や小学校との交流や、ホームの夏祭りに地域の方々を招いて交流している。地域のボランティアの定期的な訪問などがあり、積極的に地元の人々との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解、共有し具体的な改善にチームで取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、ホームの事業や企画を報告し、意見や要望などを話し合い、支援サービスに活かすように努めている。	○	会議の議題内容によっては、駐在所や保健所など多方面の方の参加で、情報交換や協力が得られるように働きかけている。地域に根ざした支援サービスに活かされるよう、さらに、取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険グループが運営推進会議に参加している。事業主は地域密着型の委員になっており、地域包括センターと連携してサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の心身状況を詳細に記載し、金銭管理・行事内容・職員からの便りなどを写真を添えて、毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの面会時に利用者の日常の状態を報告し、意見や要望を聞き、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスセンターなど、同社の他の事業所間で職員異動はしていない。今年度は職員の異動もなく、利用者との馴染みの関係になって支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主は職員の研修や資格研修に理解があり協力的で、グループホーム協会や介護福祉士会などの研修に参加している。研修後、ミーティングで他の職員と共有している。事業所全体で各種の委員を配置し、会議を開いて資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会やケアマネジャーの研修会に参加し、情報交換や交流に努めている。	○	他の事業所との職員や利用者の交流により、新しいサービスの方策や支援のあり方を見直す機会になり、利用者にとって生活の幅を広げるものと期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人を交えて家族と十分に話し合い、ホームに来ていただいたり、職員が訪問するなど、馴染みの関係をつくるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯、食事の準備や後片付けなど、日常生活を共にして、利用者から学んだり、支えあう関係を築くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やセンター方式を活用して思いや意向を把握し、チームで話し合い支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の状態やバイタルサイン、食事や水分の摂取量をチェックし個別に記録しており、本人や家族の意見を取り入れて、チームで話し合い介護計画を作成している。	○	ケアプランによる支援の内容は、日々個別に記録されているが、実施の具体的な記載はされていない。声かけや対応など実施内容を全職員が共有した支援サービスの取り組みが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。利用者の心身の状況の変化に伴い、チームで検討し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望・状況により、家族がホームで宿泊することは可能である。通院介助や外出支援などを、家族と話し合って柔軟に対応している。	○	来年度から少人数のショートステイの受け入れも検討されており、多機能性を活かして、地域に密着した支援サービスの展開が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、入居前の医療機関で受診できるようにして支援している。緊急時には救急車を依頼するが、受診前には家族に連絡して対応策を話し合い、家族の協力を得ることもある。受診経過などを、家族に随時報告するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合はチームで話し合い、指針を作成して家族と十分話し合い、全員で共用している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルなどの書類は、所定の場所に保管し、取り扱いには注意するように全職員に周知徹底している。声かけや対応は尊厳を重視し、自尊心を傷つけないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食や入浴の時間、レクリエーションの参加などを自由にして、利用者の要望やペースを大切に、その人らしい生活の支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて、栄養士が献立を作成している。食事の準備や片づけを率先してくださる方もいる。職員も一緒に食べながら談笑し、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数や時間帯は、できるだけ本人の希望や体調に合わせて個別に対応している。毎日入浴される方や週に2～3回の方もおり、午後に入浴される方が多い		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意思や力量によって、家事やレクリエーションに参加していただくようにしている。手芸や絵の得意なおられ、ホームには素晴らしい「たんぽぽ」の作品が飾っており、和やかな雰囲気の中で楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に散歩に適したコースがあり、気候のよい時には出かけるようにしている。外出を好まれる方が多く、近くのスーパーへ買い物に行ったり、利用者の体調に合わせて、全員で外食やピクニックに出かけている。家族の協力で県外へのドライブも実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階の玄関は夜間に施錠しているが、ホームの入り口はチャイムをつけて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で利用者も参加して、定期的に避難訓練を実施している。	○	災害時の医療品や食料品、飲料水などを備蓄し、実際に使用してみることも検討してほしい。運営推進会議で取り上げて、地域の住民と連携して災害時の訓練を実施し、地域の人々の協力が得られるような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れ、栄養士が献立を作成しており、食材の品数も多く栄養バランスを考慮している。糖尿病や嚥下困難な方への対応や食事量や水分摂取量のチェックをし、健康管理に活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には、コタツのコーナーがあり、季節の花や飾り物を置き、利用者の作品やドライブ・行事などの写真を展示している。可動式のテーブルを移動し、レクリエーションをするなどホームを有効に活用している。トイレは職員のアイデアで手作りの暖簾を掛けて、場所が分かりやすいように工夫しており、居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の入り口には花のプレートをつけて、場所が分かり易くなっている。使い慣れた調度品や寝具を持ってきていただき、入居者が安心して暮らせるように配慮している。	○	個室は調度品が少ないように思われる。本人の好みや心身の状況によるが、カレンダーや季節の飾り物をするなど工夫が望まれる。